

動物実験に関する現況（平成 23 年度）調査票

東京理科大学

平成 24 年 12 月

4. 年度ごとの動物実験に関する教育訓練の受講者数

教育訓練受講者数	H23 年度	H22 年度	H21 年度	H20 年度
	572 人	467 人	421 人	412 人

※ H19 年度以前は施設別に実施

5. 実験動物飼養保管施設の現況

施設の名称	施設管理責任者の 職・氏名	実験動物管理者の 職・氏名	動物種 (最大飼養頭数)	
			野田共同 動物飼育施設	准教授 齋藤正寛 (経験年数：20 年) (関連資格：なし)
			モルモット	20
			ウサギ	24
薬学部動物舎	H23.12.31 まで 教授 廣田孝司 (経験年数：30 年) (関連資格：なし) H24.1.1 より 教授 深井文雄 (経験年数：30 年) (関連資格：なし)	H23.12.31 まで 教授 廣田孝司 H24.1.1 より 助教 伊豫田拓也	マウス・ラット	6000
			モルモット	120
			ウサギ	30
生命科学研究所 動物実験施設	教授 安部 良 (経験年数：35 年) (関連資格：なし)	助教 小川修平	マウス	8000

6. 特記事項

本機関には、II-5 に記載した野田共同動物飼育施設、薬学部動物舎、生命科学研究所動物実験施設という3つの実験動物飼養保管施設が、同一のキャンパス内に存在する。各施設の主たる利用者（教員・学生）の所属する学部等が異なる他に、生命科学研究所動物実験施設はマウスの SPF 環境下での飼育に特化している一方、野田共同動物飼育施設はできるだけ多くの動物種の飼育を可能としている。薬学部動物施設は主に薬学部内で使用する動物（但し RI 投与動物等は生命科学研究所動物実験施設で使用）を飼育している。動物種もマウス、ラットの他、モルモット、ウサギの飼育も可能である。また、飼育環境としてコンベンショナルと SPF を選択でき、施設内に小規模な実験室も設けてある。動物施設は、施設ごとの使用規則を定め施設管理責任者（動物実験委員会委員である）と施設運営委員会を置き、動物飼育等に関するものの他、動物実験の実施状況を把握し、実験実施者に適切な指導・助言を行っている。

動物実験計画を審査する動物実験委員会は、全学統一委員会として設置・運営されている。